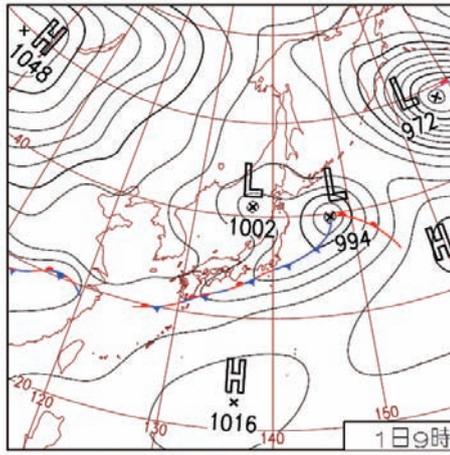


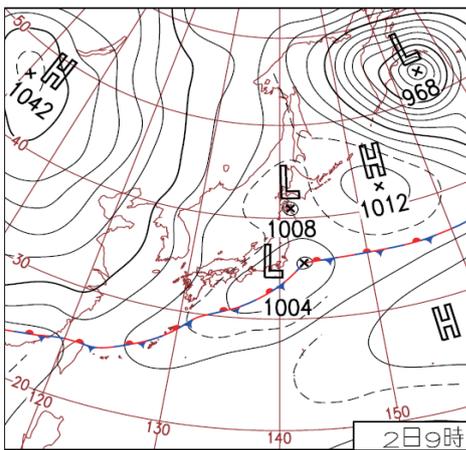
31日(土)低気圧 足早に通過

高気圧は東海上に抜ける。夕方から夜にかけて前線を伴った低気圧が日本海を通過。また、西日本を夜、前線が通過。西～東日本は雷を伴った雨。



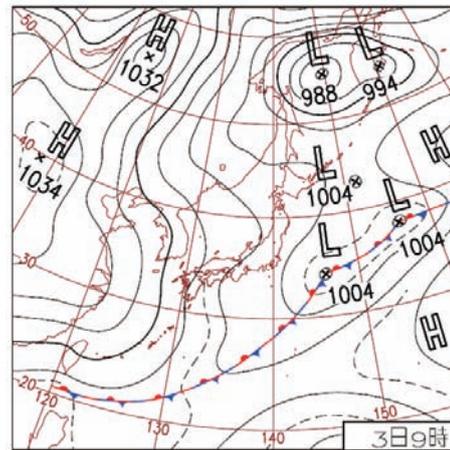
1日(日)本格的な黄砂

前線に近い九州は曇りや雨。東日本は概ね晴れ。静岡市清水区の最高気温31.8℃。全国で今年初の真夏日。九州～東北北部の広範囲で黄砂観測。トラック諸島近海で台風第1号発生。



2日(月)黄砂続く

低気圧が東北北部と関東の東海上にあり前線が南岸に停滞。北海道や東北で雨。前日に続き東北～九州の広範囲で黄砂観測。熊本、広島、水戸など7官署でサクラ満開。



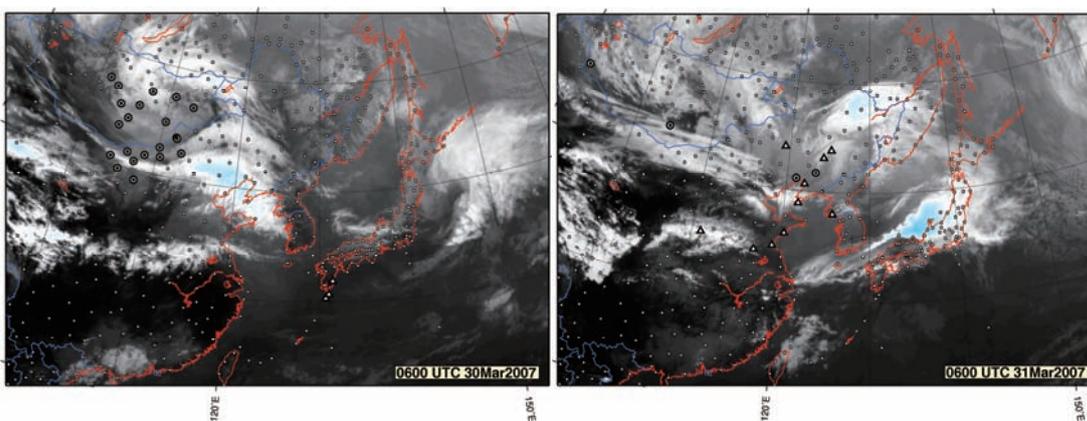
3日(火)関東花冷え

日本の東海上の低気圧からのびる前線が本州の南海上に停滞。日本海側は昼前まで曇りや雨、関東は北東気流の影響で日中の気温真冬並。東京は日中に5.9℃の最低気温を観測。

図 27 黄砂飛来期間前後の地上天気図 (気象庁) (2007年3月31日～4月2日 09 JST (00 UTC))

Day -2

Day -1



Day 0

Day +1

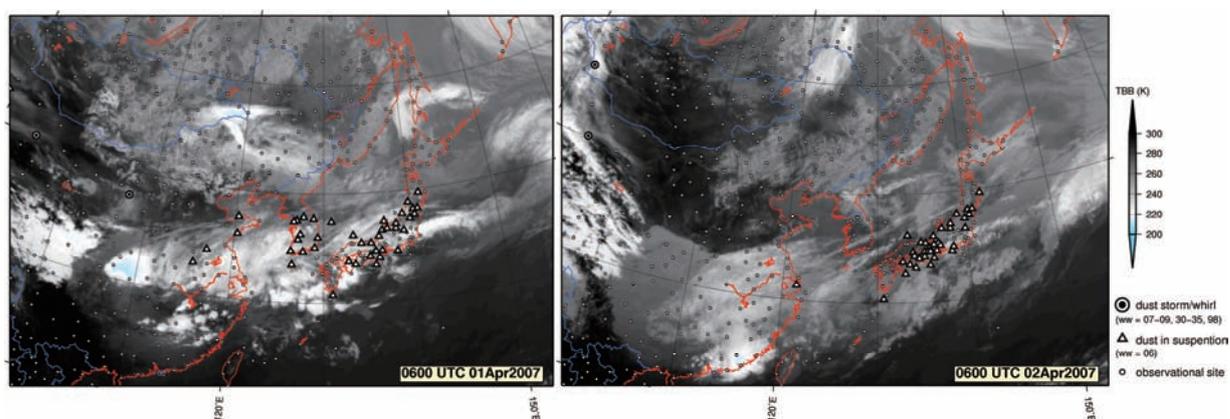


図 28 黄砂飛来期間前後の運輸多目的衛星 MTSAT-1R の赤外 1 チャンネル等価黒体温度 (equivalent black-body temperature; 陰影部) および地上気象観測点における現在天気で、砂塵嵐 (二重丸)・浮遊塵 (三角) を観測した地点 (2007 年 3 月 30 日~4 月 2 日 15 JST (06 UTC))

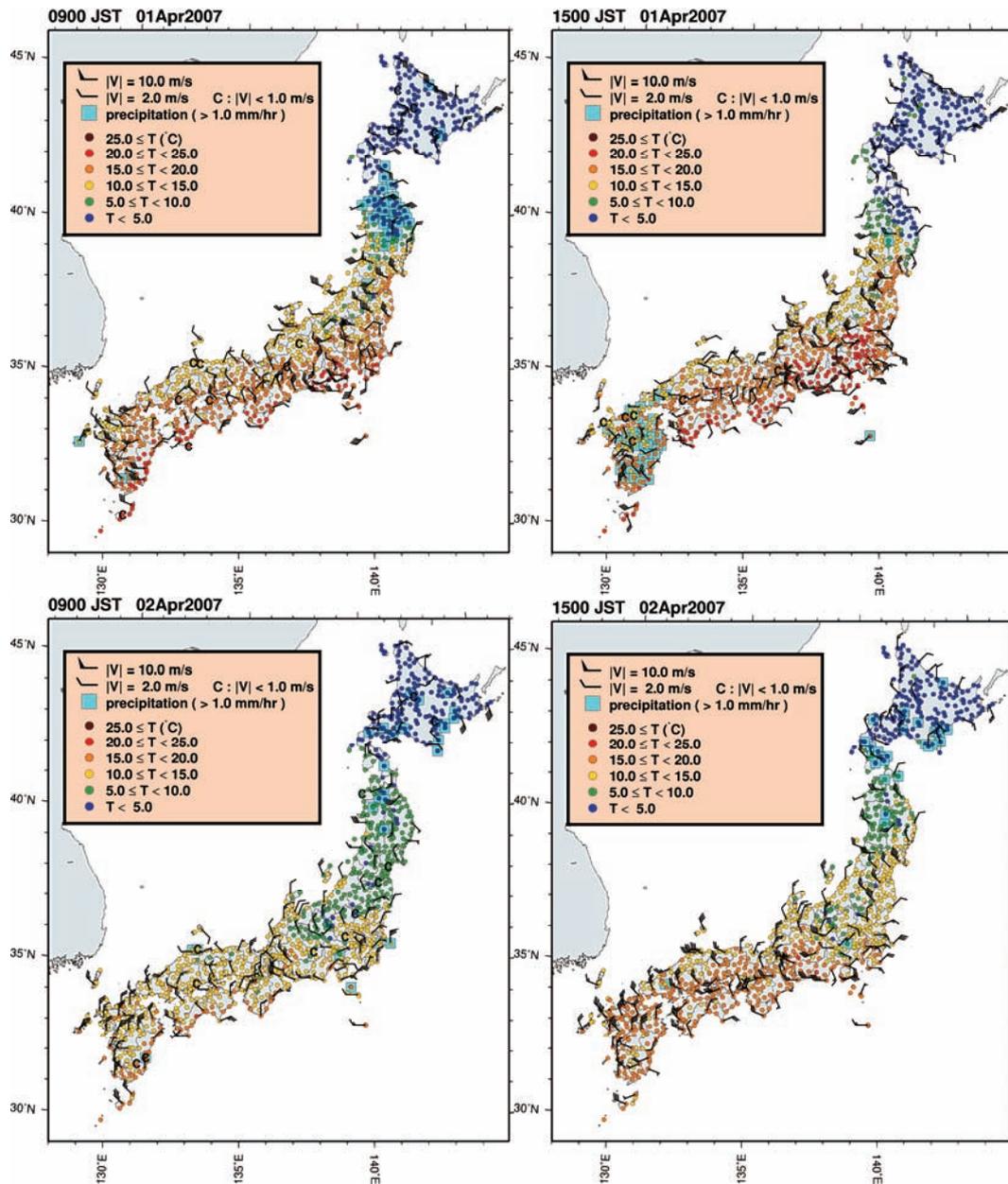


図 29 気象庁地域気象観測システム Automated Meteorological Data Acquisition System (AMeDAS) による気温（色つき丸印）、風向風速（矢羽、気象台・測候所のみ）、降水（1mm/hour 以上のみ、水色の四角）（2007年4月1日、2日の09 JST（00 UTC）および15 JST（06 UTC））

(2) 大気汚染物質の動態

図 30 に 2007 年 4 月 1 日から 4 月 2 日にかけての格子平均 SPM 濃度の空間分布を示した。図から、2007 年 4 月 1 日の 15JST では、図 30 の浮遊塵の観測地点分布に同様に九州地方から東北地方にかけての地域で、SPM 濃度が最大 $500 \mu\text{g}/\text{m}^3 \sim 600 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度（測定局濃度）になっている。この高濃度の SPM 空間分布域は、九州地方から東北地方南部と非常に広範囲に渡っており、2007 年 4 月 1 日 09JST に九州地方西部から、山陰地方・北陸地方の沿岸から高濃度になり始め、時間の経過とともに次第に内陸部に広がっていく様子が分かる。しかしながら、関東地方では隣接地域（北陸、東北南部、東海地方）と比較して 4 月 1 日の 15JST までは SPM 濃度が低くなっている。その後、4 月 1 日の 21JST の段階から、茨城県などでは、鹿島灘側（東側）から内陸部に向かって高濃度域が時間の経過とともに進行している。